

**山口県小学校長会報**

発行所  
山口県小学校長会  
代表者 山本晃久  
校長会事務局  
山口市大手町2-18  
☎ 083-925-2919  
FAX 083-925-6776  
印刷所  
大村印刷株式会社

## 平成二十七年度を振り返って



山口県小学校長会 副会長 中村 達 実

### 一 はじめに

平成二十七年は、山口県にとってこれまでになく様々なできごとがあった。大河ドラマ「花燃ゆ」の放映に始まり、松下村塾や萩城下町など明治日本の産業革命遺産の世界文化遺産登録、世界スカウトジャンボリーの開催、「MINE 秋吉台ジオパーク」の日本ジオパーク認定、全国健康福祉祭やまぐち大会「ねんりんピックおいでませ！山口」の開催、レノファ山口FCのJ3優勝など、記念すべき年になった。

### 二 小学校長会にとっては

少子高齢化の急速な進行やグローバル化、高度情報化の進展など、変化の激しい時代にあつて、確かな学力や豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育の実現をめざし、山本晃久会長の下、三百二名の会員でスタートした。五月の第六十七回総会では、研究主題と副主題を再確認

し、研究主題の具現化を図るために、校長は教育の不易と流行を見極めつつ、未来を担う子どもたちに志を高く抱かせ、生きる力を育てる教育課程を編成・実践・評価・改善したり、学校・家庭・地域が協働して教育活動を推進したりすることが大切であることを共通理解した。また、教育課題に対する国の諸改革や学習指導要領改訂の動向を注視することなども重点目標の一つに加えた。

そして、研究主題の視点を踏まえた研究課題を解明するため、第六十七回全国連合小学校長会研究協議会山口大会を十月に開催したことは、山口県小学校長会にとって、平成二十七年最大の事業であった。

### 三 全連小山口大会

本県にとっては四十年ぶりの全国大会であった。そのために、平成二十三年度から、全連小山形大会以降の全国

大会を参考にさせていただきながら、準備委員会・実行委員会を中心に準備を進めた。地方での大会開催における運営面での課題解決、三年次の大会主題を受けた研究内容や分科会のもち方の工夫、山口県への関心を高めることなどについて、延べ百回を超える検討や打合せ等を重ねて大会に臨んだ。

この上ない好天の下、全国から二千六百名余りの参加者を迎え、二日間の日程を無事終了することができた。分科会における研究発表は校長の役割、指導性を明確にした提案がなされ、研究協議でも三重・埼玉大会のつながりが押さえられ深まりのある協議となり、参加者から高い評価をいただいた。また、シンポジウムでも、それぞれのシンポジストの分かりやすい話に心を引きつけられ、学校経営や教育の根幹にかかわるヒントがあり有意義であった。懸念していた運営面での課題についても、総務部や運営部、研究部、広報編集部各部の周到な準備や適切な対応、さらには退職校長会の皆様のおかげで、「遠くから来た甲斐があった」、「山口

県の校長先生方の対応で不便さを苦に感じなかった」、など参加者からのお礼の声をたくさん聞くことができた。今後、得られた多くの貴重な成果をこれからこの学校経営に生かしていただきたいと願う。

本大会を盛会に終えることができたのは、山口県小学校長会全員の熱き思いやおもてなしによることはもちろんであるが、多くの関係者のご支援の賜である。改めて、すべての皆様に感謝

を申し上げたい。

### 四 今後の課題と取組

先を見通すことが難しい現在及び将来において、子どもたちが志を高くもち未来へ向かって力強く生き抜く力を育んでいくためには、学力向上、人材育成、学校・家庭・地域の連携等は重要なことである。その上で、これからは、何ができるようにするか、何を学ぶか、どのように学ぶかなどの学びの質や深まりを重視した真の学ぶ力を育成することが必要になる。その他に、英語教育の強化や道徳の教科化などにも新たに取組まなければならない。

ただ、先にも述べたが、今を生きる私たち校長は、教育の本質的なものやその時代の要請に応じて変えなければならぬものを見極め、今、何をなすべきかを真剣に考え、先見性のあるビジョンに基づく学校経営を推進することが使命であることを忘れず、邁進しなければならぬ。

### 五 おわりに

今回の全連小山口大会を通じて、山口県小学校長会会員相互の支え合い結束する力が、より高まったことを実感している。県小学校長会の「志」が高まったと言ってもいいかもしれない。今後、会員数が減少しても同志の力を合わせて組織の活性化を図るとともに、各支部の小学校長会との連携を一層密にして活動の充実に努めていきたい。